

資料:伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の見直しに向けて

1. 計画の見直しについて

○伊豆市では、人口減少や少子高齢化が将来に渡って続き、これにより路線バスの維持が難しくなっており、さらに市内の一部地域では路線バスが運行しておらず、路線バスが運行している地域においても日中は運行が極めて少ないなどの課題を抱えています。

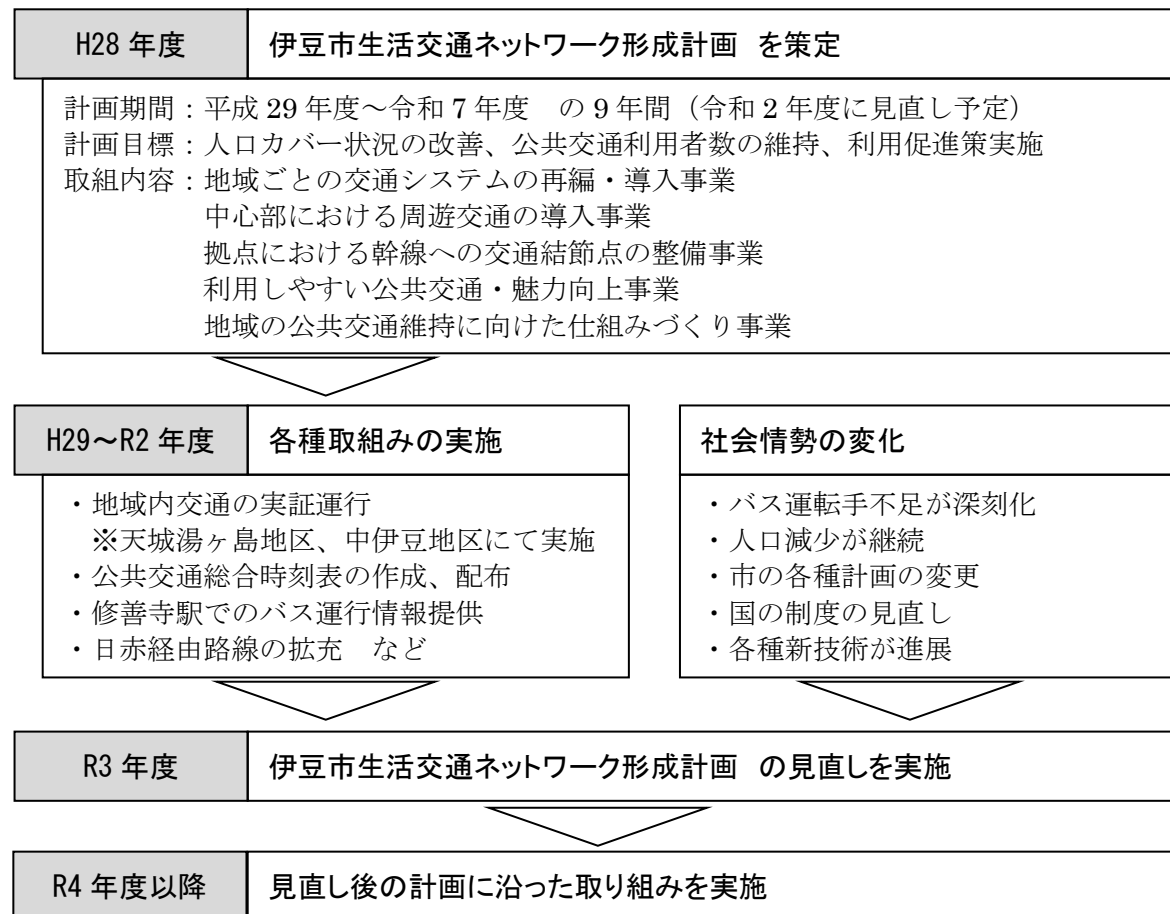
○この状況下、将来に渡り持続可能な地域公共交通を提供するため、2016年度（平成28年度）に市内の公共交通に関する総合的な取り組み内容を整理した「伊豆市生活交通ネットワーク形成計画」を策定し、2017年度（平成29年度）から、地域内交通の検討や総合時刻表の作成、修善寺駅での情報提供の充実など、各種取り組みを行ってきました。

○伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の計画期間は2017年度（平成29年度）から2025年度（令和7年度）までの9年間となっていますが、中間年では、必要に応じた見直しが予定されています。

○計画の策定後、この数年間で自動運転やIT技術の進展、市の将来計画の変更（ガーデンシティ構想、中学校再編の時期変更等）、路線バス運転手の全国的な不足の深刻化、地域公共交通に関する国の制度変更など、本市の地域公共交通を取り巻く状況が大きく変化しています。

○このため、今年度は伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の見直しを行い、現状や今後想定される課題、社会情勢の変化に対応した地域公共交通の確保を目指します。

○本資料は、次年度の見直しに向け、計画策定後の取り組み状況や社会情勢の変化、計画見直しの方向性を提示し、この場で関係各位の議論を行うための材料となります。

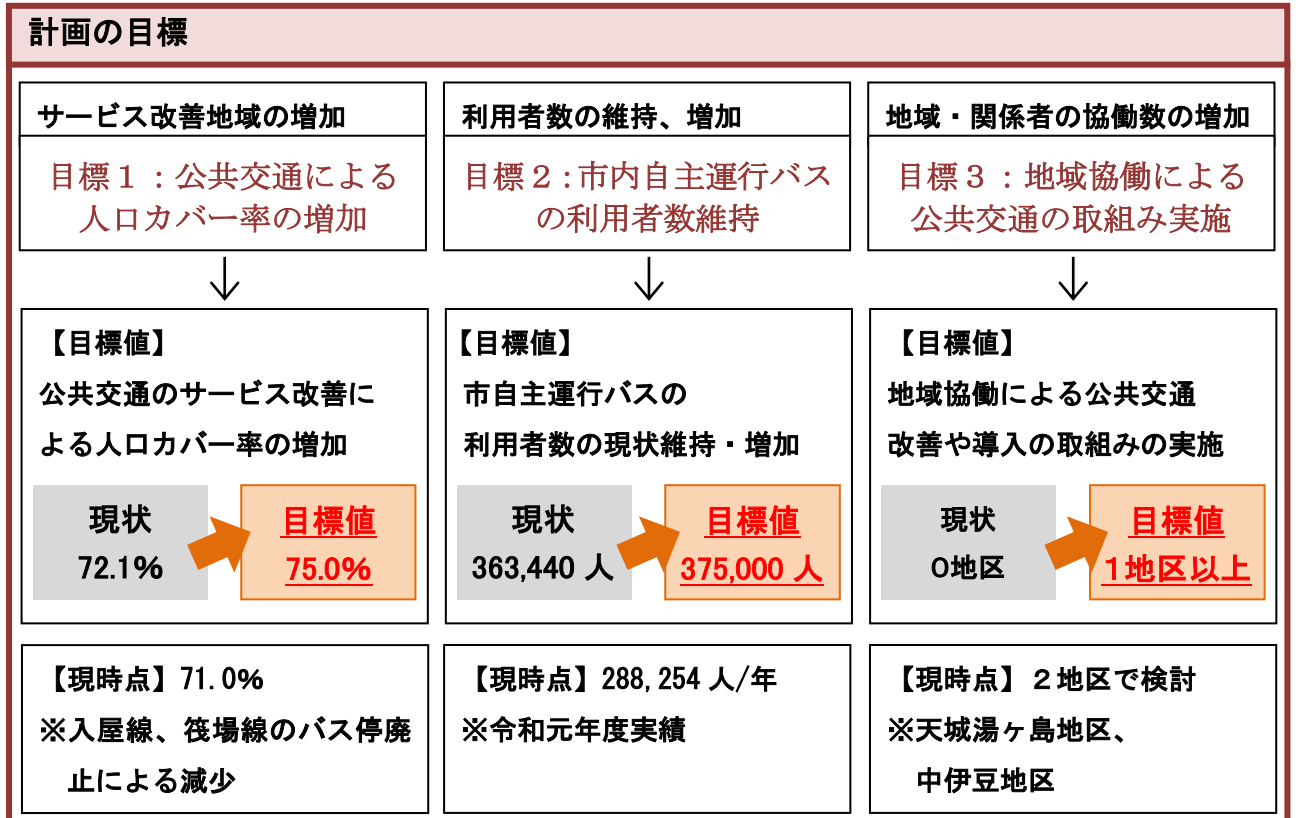
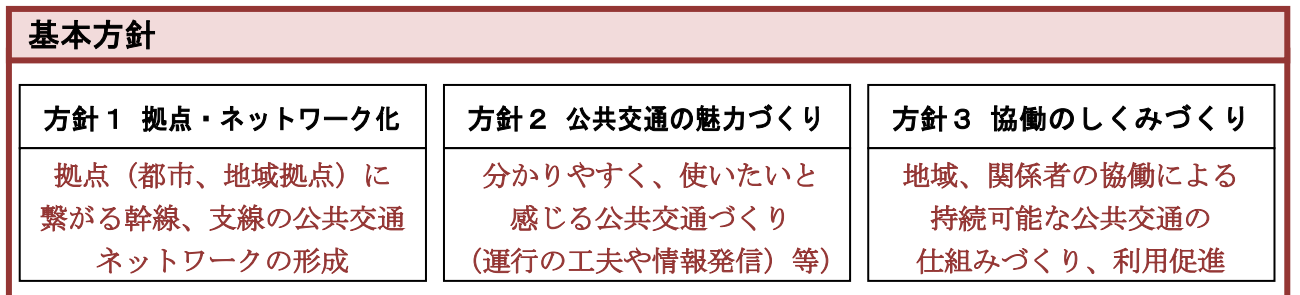
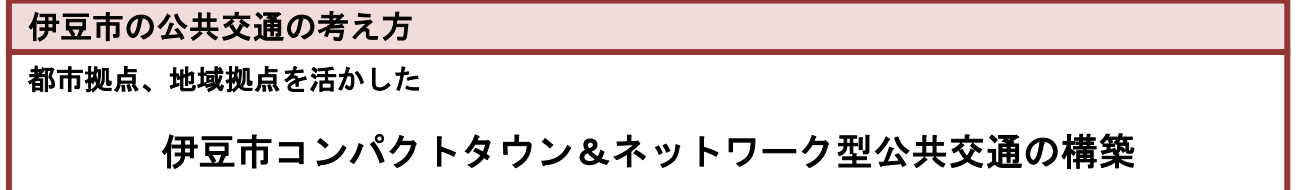


2. 計画の目標、取組みの達成状況

(1) 目標の達成状況

○計画では、「都市拠点、地域拠点を活かした伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク型公共交通の構築」を基本的な理念とし、以下の基本方針に沿った計画目標を設定しています。

○計画目標のうち、地域における取組状況は2箇所（天城湯ヶ島地区、中伊豆地区）と目標を達成していませんが、人口カバー状況、市自主運行バスの利用者数は目標を下回る状況です。



(2) 取組みの実施状況、課題

		第1期(短期)				第2期(中長期)				実施主体			実施状況 (H29~R3)	課題		
		H29 2017	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	住民	事業者			行政	
基本方針1 拠点(都市、地域拠点)に繋がる幹線、支線の公共交通ネットワークの形成	事業1 地域ごとの交通システムの再編・導入事業	学校再編に合わせた路線設定および支線再編(短期的再編)				コンパ外&ネットワークへの再編(幹線、支線、拠点の一体再編)(長期的再編)				●	●	●				
	地域内のフィーダー交通	中伊豆、天城湯ヶ島地区の支線導入(またはサービス向上)事業 試験運行				支線導入 運行継続(必要に応じて見直し) 拠点を中心とした路線再編の検討および実施				●	●	●	→	<実証運行の実施> ・天城湯ヶ島地区：H29~H30 ・中伊豆地区：H30~R1 <取組結果> →両地区とも利用は少なく、本格運行には至らず →日中フィーダー運行及び地域の交通形態について検討	・予約型の交通システムは、予約の抵抗感が大きく、タクシー営業所が地域から遠い場合もあり、ハードルが高い ・天城湯ヶ島地区、中伊豆地区での結果を踏まえた他地区への展開の考え方	
	学校再編にあわせた対応	土肥小中一貫校への対応				中学校再編への対応 拠点を中心とした路線再編の検討および実施				●	●	●	→	<土肥小中一貫校への対応> ・通学利便性確保に向けた路線バスのルート変更を実施 <中学校再編への対応> ・再編時期がずれこむため、今後検討	・中学校再編が計画期間最終年度あたりにずれ込む予定で、今後、路線バス網の見直しが必要	
	幹線路線の利便性向上	幹線路線のダイヤ等利便性向上検討				利便性向上検討 拠点を中心とした路線再編の検討および実施				●	●	●	→	・順天堂大学病院までの利便性向上及び自家用車から公共交通への転換を図る為、修善寺駅からの直行便バスの社会実験を実施し、導入を検討	・中伊豆線の減便など、今後路線バスの環境がさらに厳しくなる中、幹線路線維持が必要	
	事業2 中心部における周遊交通の導入事業	中心部経路変更の検討(道路整備と中心部経路路線変更検討)				中心部運行の見直し 修善寺の都市拠点の周遊向上策の検討、実施				●	●	●	→	・土肥方面から日赤病院への利便性向上を目的に、H29年度に西海岸線の一部便を日赤経由に変更、周知広報を継続	・中学校再編に合わせた交通空白地域への対応が求められる	
	事業3 拠点における幹線への交通結節点の整備事業	地域内フィーダーの実施にあわせた交通結節点の検討、実施				まちづくりと一体となった拠点整備、交通結節機能の強化				●	●	●	→	・修善寺駅、土肥港フェリーターミナルにおいて路線バス運行情報のデジタルサイネージを設置 ・天城北道路月ヶ瀬 IC 道の駅の交通結節点としての機能を検討	・各地域の拠点バス停の情報提供機能強化、待合環境強化 ・今後のまちづくりとの連携	
基本方針2 分かりやすく、使いたいと感じる公共交通づくり(運行の工夫や情報発信等)	事業4 利用しやすい公共交通・魅力向上事業	魅力 ・総合時刻表の作成、配布 ・バスの乗り方教室の開催 わかりやすさ ・路線バスの方面別ナンバリング導入 ・デジタルサイネージの設置 お得感 ・地域で開催するイベントや訪問についていきいきパス、既存のお得なパスを周知 ・商業施設との新しい連携割引を検討 協力意識 ・地域内のフィーダー交通検討にあたり、地域住民と連携した検討を実施										●	●	→	・より一層の利用促進が必要 ・バスに関する情報提供サービスの充実、MaaSの概念など、近年の公共交通を取り巻く環境の変化の活用 ・乗り方教室や周知を通して、公共交通を知ってもらう機会を増やすことが必要	
基本方針3 地域、関係者の協働による持続可能な公共交通の仕組みづくり、利用促進	事業5 地域の公共交通維持に向けた協働の仕組みづくり事業	地域内交通について、地区検討会議を開催し、実証運行の検証、導入の意見交換・検討 ・バス待ち環境整備事業を地域との協働により実施										●	●	●	→	・市民ひとりひとりが行動しないと、公共交通の維持が困難である点を理解し、積極的な参画への流れを構築することが求められる

3. 計画目標、取組み内容の見直し案

※計画の見直しについては、今後検討を進めますが、本内容は本日の意見交換用に作成した素案です

(1) 基本方針、計画目標について

○公共交通の基本的な考え方は、現在の計画内容「都市拠点、地域拠点を活かした伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク型公共交通の構築」を踏襲すべきですが、基本方針や計画目標については、「**このままでは伊豆市の公共交通はなくなってしまう**」という強い危機感を持ち、**関係者が自分たちの行動により達成される目標として意識できるよう、基本方針や計画目標の見直しが必要**です。

伊豆市の公共交通の考え方
都市拠点、地域拠点を活かした
伊豆市コンパクトタウン&ネットワーク型公共交通の構築

基本方針、計画目標（案）	
基本方針1 拠点・ネットワーク化	持続性、地域性を有し、拠点へのつながりをもつ幹線、支線の公共交通ネットワークの死守
↳	計画目標1-1 公共交通による人口カバー率（継続） →公共交通ネットワークが維持されている指標として、継続モニタリング
↳	計画目標1-2 日中における公共交通等（地域協働による移動手段を含む）による高齢者人口のカバー率（新規案） →公共交通による高齢者の外出が可能か検証するための指標として提案
基本方針2 公共交通の魅力づくり	市民、来訪者が真に使いやすい、分かりやすいと感じる公共交通サービスの実現
↳	計画目標2-1 市自主運行バスの利用者数（継続） →公共交通サービスが使いやすいものになっているという指標として、継続モニタリング
↳	計画目標2-2 市民1人あたりの公共交通利用回数（新規案） →市民が果たすべき役割として明確な指標を設定し、利用を促す主旨で提案
基本方針3 協働のしくみづくり	地域、関係者の協働による持続可能な公共交通の仕組みづくり、利用促進 の徹底
↳	計画目標3-1 地域協働による公共交通改善や導入の取組みの実施（修正） →市内全地区で一定程度の検討を行い、地域内交通の確保の方法の方向性を出す

(2) 取組み内容について

- 取組み内容は、基本的に現計画の内容を踏襲し、基本方針や計画目標に見直しに沿って修正を行います。が、**国の制度の見直しや新技術の展開などを踏まえ、取組み内容の充実**を図ります。
- 特に**各地区での地域内交通の確保**について**実効性を持たせる仕組みづくり**、**利用促進策の充実**など、**公共交通の利用の維持を図っていくための方策を徹底**します。

		今後の取組み内容（案）
基本方針1	事業1 地域ごとの交通システムの再編・導入事業	
	地域内のフィーダー交通	① 各地区での地域内交通の方向性の検討 →実証運行の結果を踏まえ、また国の制度見直しも考慮し、各地区での地域内交通をどのように維持、確保していくかを検討（予約型交通の他、自家用有償運送、福祉施策との連携も視野） ② 地域内交通の確保に向けた手引き等の検討 →地域内交通に関する住民ニーズの発意、市の協力体制、住民の検討内容、導入や維持に向けた目標値等の取り決めを行う
	学校再編にあわせた対応	① 中学校再編に合わせた路線バス網見直し →中学校再編の実施時期、内容を確認し、修善寺地区、天城湯ヶ島地区、中伊豆地区での通学に対応した路線バス網を見直し ※本内容は計画期間の最終年度あたりになると想定
	幹線路線の利便性向上	① 幹線路線の維持に向けた取組み →拠点間を結ぶ幹線路線について、ダイヤ面での利便性の維持、インバウンド対応の充実など、使いやすさを向上していく
	事業2 中心部における周遊交通の導入事業	① 中学校再編に合わせた交通空白地域対応 →狩野川右岸の交通空白地域について、中学校再編による路線バス網見直しと連携した改善策を検討
基本方針2	事業3 拠点における幹線への交通結節点の整備事業	① 交通結節点での情報提供、待合環境の充実 →修善寺駅や土肥港フェリーターミナルでの情報提供内容などを活用し、湯ヶ島や八幡など、各地区の拠点バス停、主要施設での路線バス情報提供を充実
	事業4 利用しやすい公共交通・魅力向上事業	① これまでに実施した利用促進事業の継続 →計画策定以降に作成、配布している伊豆市公共交通マップなどの継続、交通事業者が中心となる路線ナンバリングの周知継続を行う。 →また、コロナ禍で昨年度は実施できなかった乗り方教室の開催を継続 ② 各種補助事業を活用した利用促進策の充実 →高齢者を対象としたいきいきパスの継続のほか、免許返納者を対象とした移動支援の充実等を検討し、鉄道、路線バス、タクシーの継続的な利用を目指す。
基本方針3	事業5 地域の公共交通維持に向けた協働の仕組みづくり事業	① 市内各地区での交通問題検討会の組織、運営 →天城湯ヶ島地区、中伊豆地区での実証運行を実施した結果、現時点での移動手段確保の必要性が低く、行政が主体となる検討には限界がある。 →そこで、「このままでは市内の路線バスは維持できない」という強い危機感を市民一人ひとりが持ち、行動できるよう、各地区で検討会を組織し、継続的に路線バスの利用状況や地域内交通の検討、各地区でできることなどの意見だしを行っていく。

※上記以外に、現計画で記載する取組み（利用促進策等）も継続して実施する